

櫻

けやき

小牧幼稚園 園だより 第386号 2023年8・9月

教育目標「神を敬い 人を愛し 平和を作り出す子どもを」

年主題「ともにつむぎだす」～希望の中で～

年聖句「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも

また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました」

エフェソの信徒への手紙2章17節

通常は、お盆を過ぎると、「残暑見舞い」となりますが、暑さがいつまでも続くと挨拶の言葉も変わってくるのかもしれませんが。気候変動で、新しい表現・言い回し、外国語が出てくると、気象ニュースを見ても理解できないことが多くあります。

日本の昔からの暦でいえば、8月23日から9月6日は、「処暑」といわれ、暑さが少しやわらぐころのこと。朝の風や夜の虫の声に、秋の気配が漂いだす、言われます。確かに、園庭のセミの鳴き声も少なくなっていて、夕方、私たちが帰る頃は虫の鳴き声も聞こえるようになってきました。ただ、暑さも相変わらずで各保育室は、朝から冷房かけ、外では遊べない状態が続いています。今週には園庭のプールが片付けられ、園庭も広がり、子どもたちにとって、大好きな体を動かして、遊び惚ける、運動シーズンが始まる予定です？今年の秋はいつやってくるのでしょうか？

この数年の暑さの中で、運動会の日程を一週間ほど遅らせて行うようにしてきていますが、もっと後の方が良いのかと思える、今年の暑さです。それでもお迎えの子どもたちは、室内から解き放されたように、お迎えのお母さんを、桜の木の日陰に待たせ遊んで帰ります。運動会を1年の行事の順番というか、枠で捉えているのではなく、夏の暑さが終わり、子どもが思い切り、体を動かしたくなる季節に子どもの欲求に合わせて色々な運動を保育のなかで環境設定し、その流れで、みんな集まって運動をすることが「運動会」となります。そのため、子どもが欲求していないのに、無理に行うことはしません。この暑さの中、子どもの気持ちを大切に見守りながら、「秋」を見定めて色々な行事を考えていきます。

☆夏の幼稚園の間に、高校生の職場体験がありました。毎年、愛知県私立幼稚園連盟が、県内の高校に呼びかけ、幼稚園の先生の体験をして頂いて、末は幼稚園の先生になってもらえることを願って募集しています。この数年はコロナ感染で参加者が少なかったですが、今年は、8名の高校生が来てくれました。その中には卒園生もいて数日の間ですが、子どもたちと楽しく遊んでいました。2学期には数年ぶりに中学生の職場体験も行われます。コロナで止まっていたことが少しですが動き始めたようです。幼稚園への就職希望者が年々少なくなっているようです。バスの置き去り死事件や、保育園等での子どもに対する「不適切保育」など幼稚園教諭・保育士の暗いニュースが続きますが、幼稚園教育の大切さ・楽しさを次代の人に伝えることも、私たちにとっては大切な仕事であります。小牧幼稚園では、新卒の先生の募集で困ることはありませんが、お母さん方で、資格の持っていないながら働く機会が無い方がお見えなら是非声をおかけください。

9・10月の給食メニュー

9月	5日(火)	デニシュパン	果物	ソーセージ
	7日(木)	カレーライス	果物	
	8日(金)	五目御飯	果物	
	12日(火)	黒糖クロワッサン	鶏の唐揚げ	果物
	14日(木)	ハヤシライス	果物	
	15日(金)	焼きそば	ゆかりご飯	
	19日(火)	デニシュパン	ソーセージ	果物
	21日(木)	五目うどん	果物	
	22日(金)	麻婆豆腐ご飯	果物	
	26日(火)	クロワッサン	手作りコロッケ	果物
	28日(木)	ミートソーススパゲティ	果物	
	29日(金)	ひじきご飯	果物	
10月	3日(火)	デニシュパン	ソーセージ	果物
	5日(木)	五目春雨炒め	ご飯	果物
	6日(金)	ポークビーンズ	ご飯	果物
	10日(火)	ワッフル	フランクフルトソーセージ	果物
	12日(木)	五目きしめん	果物	
	13日(金)	【運動会準備のため半日保育】		
	17日(火)	デニシュパン	ソーセージ	果物
	19日(木)	鶏ごぼうご飯	果物	
	20日(金)	中華五目御飯	果物	
	24日(火)	クロワッサン	鶏の唐揚げ	果物
	26日(木)	おいもご飯	豚汁	果物
	27日(金)	けんちん丼	果物	
	31日(火)	デニシュパン	ソーセージ	果物

☆食材の都合によりメニューの変更もあります。

☆夏休みに福井県へ行くことがあり、その道すがら、作家水上勉さんの故郷にある「一滴文庫」に寄る機会がありました。水上勉さんが愛読した個人の本を中心に郷土の資料を見ることが出来ます。水上勉さんは、童話も書いてお見えですが、一滴文庫にもお土産用においてある「ブンナよ、木からおりてこい」そのあとがきの「母たちへの一文」の中に「今日の学校教育は、人なみの子にするというよりは、少しでも、他の子に勝る子にしあげようとする母親の願いを、ひきうけているようなところもあって、子はひたすら学習にあけくれている。いったい誰が人なみでいることを悪いと決めたか、また、人なみでないことをダメだと決めたか、そこのところをも、私は子供と共に考えたいと思った。・・・」(1989.10.15 発行原文のまま)

自戒する話であります。